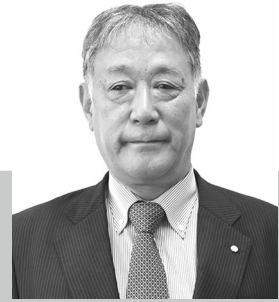


# 様々な指標から 最適な価値向上を目指す

株式会社フジタ 代表取締役専務執行役員 **平野 徹**



コロナ禍で社会は激変し、様々なモノの価値、考え方が大きく変化しました。そのような中、VEについても、今後はコストを抑えること以上に、様々なことが求められていくと感じています。

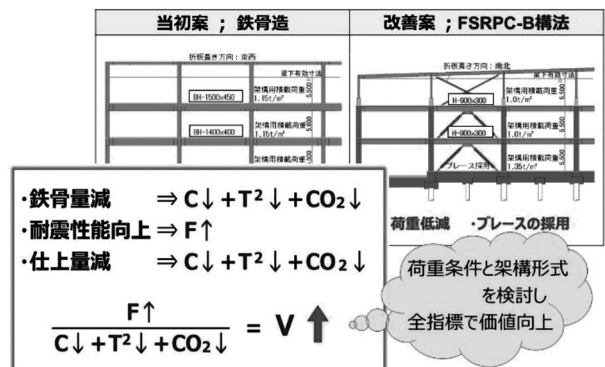
現在、当社はDX (Digital Transformation) に力を入れていますが、例えば、BIM/CIMやAIなどを使って設計から施工のフローの効率化を実現し、お客様の要求に的確に対応して素早く建物をご提供することで、モノの価値は高まります。

これをVEの価値式で表すと、コストCを時間Tに置き換え、 $V = F / T^2$ となるでしょうか。T<sup>2</sup>としたのは、工事の時間短縮だけでなく、設計や施工管理等の業務の時間短縮、早期引き渡しによるお客様にとっての時間短縮、工事に伴う周辺への影響の時間短縮など、それらが2乗で効いてくると考えるためです。この考え方は、建設業の担い手不足（労働力不足）や2024年度からの残業規制適用などの差し迫った時短の要求に対しても、プラスに作用すると思われます。

また、グループ会社の環境プログラムに沿って進めるGX (Green Transformation)、脱炭素への取り組みも同様で、いかにCO<sub>2</sub>の排出量を制御できるかで価値が大きく左右されていきます。こちらの価値式は $V = F / CO_2$ となり、近年さかんに提唱されている $V = F / R$ のResources（資源）とは消費前と消費後の違いはありますが、双方とも環境に関わる指標であり、削減することによって事業全体の価値が上がることとなります。

ただし、注意すべきは、CO<sub>2</sub>の削減が時間やコストと相反する場合があります、どの分母を使うかによって価値が上がったり下がったりするという点です。お客様の要望、社会の要求、事業の採算に関して優先順位とバランスをプロジェクトごとに評価し、そのプロジェクトにとって最も価値の高いVE提案を創

出していく必要があります。現在、この考え方をVE活動にも積極的に取り入れており、環境保全に大きく貢献したVE事例に対しては環境部門賞を授与し、社内発表会を通じて啓発しています。



## 2023年VE発表事例：環境部門賞

このようにC、T、CO<sub>2</sub>といった様々な指標を基に、日々進化するデジタルをはじめとする最先端のテクノロジーをいかに取り込んで価値向上を図っていくかが、VEのポイントとなるのではないのでしょうか。もちろん、この価値向上は、単に製品の価値向上を目指すものだけでなく、地球環境の価値向上、さらにはお客様や社会からの信頼を経て企業価値の向上にもつなげていくべきものと考えます。

おわりに、VE活動を進めるにあたって、機能Fについても留意すべき点があります。VE提案に必要な機能が確保されていることは当然ですが、その実行段階で機能の損失につながるリスクが潜んでいるという点です。多くは人的ミスやミスの見逃しによって生じており、発見が遅れ、修復のために時間やコストが増大し、想定していた価値が逆転することもあります。当然、CO<sub>2</sub>の発生も増加します。

VE提案・承認の後、きちんと実行計画、実行管理を行う。そして、結果を評価してフィードバックする。VE活動はサイクル活動であることを忘れてはいけません。  
(筆者は当会常任理事)